Ｎｏ．４６１【２０２１年６月１８日配信】
青森駅を訪れたベーブ・ルース（担当：工藤）

こんにちは！　室長の工藤です。

プロ野球北海道日本ハムでプレーをし、現在はアメリカメジャーリーグのロザンゼルス・エンゼルスで活躍の大谷翔平選手を形容する際、「ベーブ・ルース以来…」という表現をしばしば見聞きします。改めていうまでもないでしょうけれど、ベーブ・ルースは 1910 年代から 30 年代にかけて活躍したメジャーリーグのスーパースターのひとりです。そんなスター選手と肩を並べて報じられる大谷選手の活躍、北海道出身の昔むかしの野球小僧は嬉しい気持ちになるのです。

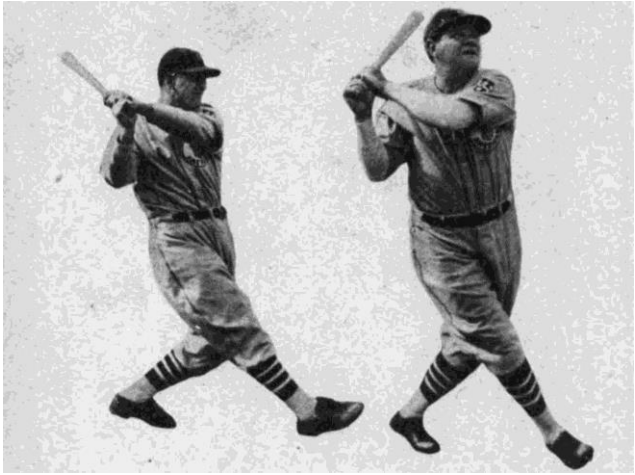
さて、「球聖」久慈次郎も所属した名門野球チーム函館オーシャンクラブのホームページ（HP）にある「写真館」に、「青函連絡船上の全米チーム（昭和９年）」とキャプションがついた写真が載っています。そして、その写真の中央左手にはなんと！　ベーブ・ルースが写っているではありませんか。連絡船に乗船しているということは、もしやルースは青森のまちを歩いているのでは…と、はやる気持ちを抑えつつ当時の新聞を繰ってみました。

全米チームは昭和 9 年（1934）11 月 4･5 日に東京で試合を行った後、つぎの試合が行われる函館に向けて 6 日午後に急行列車で東京を発ちます。渡函は青函連絡船なので青森で乗り換えになります。青森到着は翌 7 日午前 6 時 20 分、乗船する連絡船津軽丸は 7 時 10 分発なので約 1 時間の青森滞在でした。この間彼等は駅の外に出ることなく（残念…）、待合室で過ごし新聞社の取材を受けています。

ただ、ここでのやり取りを記した記事のコピーが不鮮明で内容がよく分かりません。断片的に分かることは、当初記者が選手たちにサインを求めても断られていたようです。ところが、何かのきっかけで機嫌が直りルースをはじめ数人の選手が連絡船の甲板でサインに応じています。連絡船上での集合記念写真とボールにサインをするルースの姿は、『東奥日報』11 月 8 日付 7 日夕刊の 2 面に掲載されています。

また、函館オーシャンの HP の写真が撮影されたのは 11 月 7 日正午前後頃とみられ、函館到着後甲板で催されたセレモニーの最後の「記念の撮影」であることが分かりました。ルースに向って右隣に立つ眼鏡をかけた男性は函館市会議長の登坂良作、そしてルースの前に立つ和服姿の少女は函館太洋倶楽部（函館オーシャン）の谷理事長の娘で、ルースが右腕に抱えた花束を渡しています。

ベーブ・ルースは青森の町並を目にすることはなかったようですが、青森駅のあの「長いプラットホーム」を歩き、そこで待つ多くのファンに迎えられていたのです。



ベーブ・ルース（右）とルー・ゲーリッグ
（朝日新聞社 編『運動年鑑　昭和 10 年度』、
国立国会図書館デジタルコレクションより）